

高瀬川だより

NPO法人京都高瀬川繁栄会報
編集人 田村佐起三

〒六〇四一八〇〇一
京都市中京区木屋町通三条上ル
電話 (〇七五) 二二二二・一八二八

《竹生島・吉田酒造「花嵐」を好む》

海津は古くより北陸と京都をむすぶ交通の要所として栄え、最盛期には百隻近い丸子船(輸送船)を擁する大きな港町でした。

吉田酒造は明治十年の創業。以来、海津の経済活動を支えた商人や船頭、人足、漁師等さまざまな人に愛され、現在もなお当地における清酒シェアの多くを占めるブランド「竹生嶋」の蔵元です。

その味わいは「飾り気がなくボディがしつかりしており、なおかつ後切れのよい酒」。港町に集まった人々の気風にも似たこの味わいが創業以来、吉田酒造が守り続けている酒質設計の基本です。

少し甘口ですが、私は「花嵐」が大好きです。麴の香りが強く漂い、幼いころ父の晩酌のお供をしたことを思い出します。

京都文化博物館

《挑む浮世絵「國芳から芳年へ」》

6月6日〜7月19日
新型コロナウイルス感染症の予防
拡散防止のため、休館している場合があります。

旺盛な好奇心と柔軟な発想、豊かな表現力を武器として浮世絵のさらなる活性化につなげた歌川国芳(うたがわくによし)1797〜1861年。彼はダイナミックな武者絵やユニークな戯画で、幕末の浮世絵に衝撃をもたらしました。

本展では国芳の武者絵を中心としながら、月岡芳年(つきおかよしとし)1839〜92年)ら弟子たちの作品にもスポットを当てます。

そして幕末から明治にかけて、国芳の個性がどのようにに継承、変化していったのかを、尾崎久弥(おごさききゅうや)1890〜1972年)、高木繁(たかぎしげる)1881〜1946年)のコレクションなど名古屋博物館が所蔵する浮世絵によってたどります。

私の本棚 おすすめの一冊 粉川 剛

《MMTとは何か/島原原著》

MMTとは日本経済の救世主になれるのか? ⑧

猛威を振るうコロナウイルス対策のため全国に緊急事態宣言が出された。飲食店やホテル、百貨店等に休業要請が出された。一般市民の外出も自粛が求められた。繁華街や観光地から人が消え経済的には大打撃となつていく。一日も早くコロナウイルスを封じ込める為にはやむを得ないが国民生活が危機の非常事態であるにも関わらず政府の経済支援策は二転三転。あまりにも遅く、規模が小さいと与党内部からも批判が続出。ようやく一人一律十萬円の支給となりそうだがこの問題の原因は首相閣内の判断ミスや財務省が財政規律を守ることに固執しているからと言われている。

最近のネット上の書き込みを読んでもみるとMMT理論を基にした積極財政に言及したものが多く財務省の緊縮財政に対する批判が多数見られる。MMTに関する書籍も増え一般人の間にも確実にこの理論が浸透してきているようである。

土口哲光和尚の説法

《十年一日の如し》

京都の南玄関に聳える五重の塔の東寺。毎月二十一日は「弘法さん」と呼ばれ、真言宗開祖の空海・弘法大師の命日に当たる。広い境内は、所狭しと露店が一千軒居並ぶ「弘法市」に。お参りと買い物を含めた中世から続く縁日風景と変わる。

この日に弘法大師の御影堂に向かう唐門に立つて、群参の人々へ「般若心経」を唱え、その胸に「募金箱」が。和歌山県高野山三寶院飛鷹全隆住職が四二歳から始めた下座行の托鉢は、今年で三五年間も続く。高野山を朝五時に出発、七時に東寺到着。常に控えめで、話しかける参拝者に「和願愛語」で丁寧に応答される。長い歳月少しも変わらず同じ「十年一日の如し」の人柄。遂に来たる七月二一日から東寺長者(住職)に迎えられる。

季節の家庭料理 田村真紀

《六月 レモン風味のポークステーキ》

豚肉は疲労回復に効果大のビタミンB1を豊富に含みます。シソ科のハーブの一種オレガノは原産のヨーロッパでは「天然の抗生物質」とその抗菌作用が認められており、インフルエンザの季節になると店頭でオレガノオイルが並ぶそうです。

《作り方・四人分》
厚切りの豚ロース肉四枚 ☆(塩小さじ三・レモンの皮のみじん切り大さじ二・乾燥オレガノ小さじ二分の一・オリーブオイル大さじ四)
豚肉は包丁で筋を切る。☆の材料をすべて混ぜ合わせ、肉をしばらく漬けておく。フライパンにオリーブオイル小匙二(分量外)をひき、肉を入れて中火で三十秒位熱してから弱火にし、焦げ目がつかないよう表、裏面ともに三分ほど焼く。

つれづれの記 山崎辰巳

《平和呆けからの脱却期》

誰もが目を逸らすことのできない新型コロナウイルスの感染拡大の脅威。緊急事態宣言後の外出制限、事業者への休業要請。業種を問わず小規模・零細企業や個人事業主はたちまち死活の窮地に立たされ、多くの失業と倒産を生み、一層の格差社会になることも想定される。

初動対応の遅れ、今日までの対処策が適切だったか、などと指摘・論評する時間はない。美術館や劇場公演、季節行事の中止・延期が相次ぎ、国民生活の中心が家庭と家族という最も基本的な場と繋がりの中で営まれる好機かもしれない。ここは長い間に沁みついた平和ボケを断ち、忘れていた家族との会話や読書、身の回りと心の整理整頓、断捨離に努め、一日も早いコロナの終息を待ちたい。